



東北地方太平洋沖地震におきまして、多くの方がお亡くなりになられたことに対しお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様をはじめ、避難生活を余儀なくされておられます皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

京都府府民生活部

福島県視察訪問報告 (7/25・26)

今後の大災害に備えるため、また被災地支援の道を探るため、7月25日(日)、26日(月)に舞鶴市南消防団・小山団長と京丹後市消防団

・羽賀団長が、福島県をおとすれました。現地消防団長のお話は「わがまちの消防団(臨時発行号)」にて掲載しましたが、本紙では京都府消防団長の意見・感想をお伝えします。

「避難に勝る防災なし」とあらためて実感し、自然災害の前に人間がいかに無力かを思い知らされた。

発災直後の団活動で多くの住民を救えたことは、消防団の重要性を十分に語っているが、多くの団員やその家族が犠牲になったことを忘れてはならない。

地域を守ると同時に、団員自身の安全確保の術も今後の訓練に必要なようになってくるだろう。

現地団長の話を聞き、消防団としての支援活動には大きな制限があることを認識した。しかし、消防団員・OBによる任意組織を編成し、ボランティア活動に参加する可能性は模索すべきだと考えている。

避難所等での各分野のボランティアの皆様には頭が下がる思いだった。今後も我々にできる支援の道を探っていきたい。



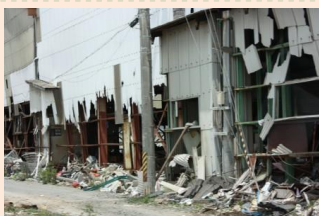
舞鶴市南消防団 団長
小山 勝巳氏



富岡町消防団長との会談の様子



須賀川市消防団長との会談の様子



津波の被害を受けた建物



復旧の進む家屋



京丹後市消防団 団長
羽賀 義昌氏

現地団長から、福島県内部から海岸部への応援出動は支援物資輸送のみで、人員派遣はなかったと聞いた。

同一県内であっても、一旦被災すると管轄区域外への出動がいかに難しいかを物語っている様に思う。

府内では、応援協定を結んでいるとはいえ、いざという時に出動できるよう、考えておく必要

がある。

東北への支援に限らず、もし府内で大規模災害が起こったら各団がどう動くか。そのことを真剣に、各市町村が被災地の立場に立って考える時期が来ている。

原発事故によって、家があるのに、耕す田畑があるのに帰れない。こんな悲しいことがあるだろうか？京都府もいつ被災地になるかわからない。そんな危機感を持ちながら、今後も団活動を行っていくつもりだ。



いわき市沿岸部の様子



被災時刻で止まった時計



立入禁止区域



打ち揚げられた船の残骸

TOPICS

平成23年度 京都府消防協会山城支部長連絡協議会団長研修会が開催されました (平成23年9月28日(水))

関西光化学研究所(木津川市)にて、山城地区の消防団長を対象に、原子力防災に関する講義が行われました。

講師に京都府原子力防災専門委員の三島嘉一郎氏(京都大学名誉教授・元京都大学原子炉実験所教授)を迎え、「原子力発電所の安全対策」「福島第一発電所事故の状況」「放射線による人体への影響」「原子力防災」などについてわかりやすく講義していただきました。



三島嘉一郎氏の講義の様子